

ARで実現する「誰でも『雪舟』」アートプロジェクト

● 本事業の目的

- ▶ 2020年に雪舟生誕600年を迎え、郷土が生んだ巨匠を記念したアートプロジェクトを開催したい。
- ▶ その後の水墨画の歴史を作った偉人と最新のテクノロジーの邂逅による新しいスタイルのアートプロジェクトを構築したい。
- ▶ アンダーコロナでの事業としてインターネットやオンラインを積極的に活用し「雪舟生誕の地・総社市」を広めたい。



ARで実現する 誰でも『雪舟』アートプロジェクト

「総社市市民提案型事業 2021」 中間報告

倉敷芸術科学大学 中川浩一

**果たして雪舟がもし現代いたら
どのような活動をしていただろうか？**

果たして雪舟がもし現代いたら どのような活動をしていただろうか？

新しい技術や表現に敏感でそれを取り入れることに躊躇しなかった雪舟は、

- さまざまなテクノロジーや技法を活用して作品を制作しているのでは？
- インスタに相当な作品数を投稿して「インスタ映え」の王になっているのでは？
- SNSで大人気のアーティストになったはず！

果たして雪舟がもし現代いたら どのような活動をしていただろうか？

▶ そこでこの事業では、現代に生きるわれわれが雪舟に成り代わり

- 「雪舟がやったかもしれない」SNS活動を
- テクノロジーアートの技術を駆使して
- より誰でも参加できるやりかたで

実現し広く共有しようとするものです。

**果たして雪舟がもし現代いたら
どのような活動をしていただろうか？**

▶ **さらに、当時の雪舟にすらできなかったことを現代のわれわれは成り
代わり実現する**

**果たして雪舟がもし現代いたら
どのような活動をしていただろうか？**

▶ さらに、当時の雪舟にすらできなかったことを現代のわれわれは成り
代わり実現する

●3D空間への直接描画

新しい時代/新しい技術/新しい表現へとつながる試み

果たして雪舟がもし現代いたら どのような活動をしていただろうか？

- ▶ 体の動き、顔の動きによって雪舟の運筆（墨が流れる動き）を発現させ、そのことによって水墨画風の描線を描くことができるシミュレーションをプログラムする。
- ▶ それを誰もが利用可能なようにスマホ上で稼働するコンテンツを制作する（ARとして起動する）。
- ▶ そこで描かれたものはSNS(具体的にはInstagram)で発信し共有できる。

果たして雪舟がもし現代いたら どのような活動をしていただろうか？

▶ 現時点までの研究過程での問題点の発見

手などに追従（トラッキング）する方法だと

- ・自分でリアルタイムに楽しむことができない
- ・自分が描いているものを確認できない
- ・複数人であることが必要（その是非）

果たして雪舟がもし現代いたら どのような活動をしていただろうか？

▶ 現時点までの研究過程での問題点の発見

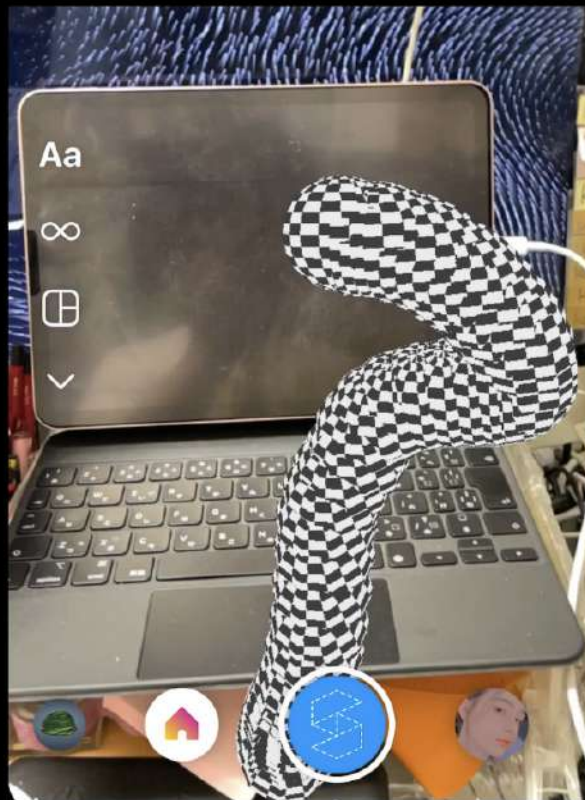
手などに追従（トラッキング）する方法だと

- ・自分でリアルタイムに楽しむことができない
- ・自分が描いているものを確認できない
- ・複数人であることが必要（その是非）

▶ 解決の方向性のひとつとして「顔」「鼻」>>変顔を楽しむ？

制作デモ映像

●プロトタイプ初期型

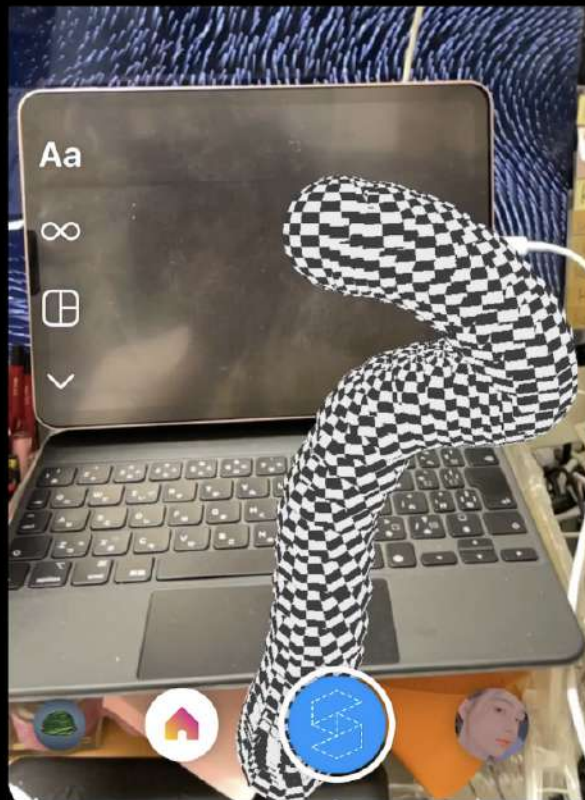


一松模様の部分は3D生成された筆先の追従オブジェクト。

このオブジェクトに筆致をマッピングしていく。

墨絵のニュアンスを出すために30秒後に順次消えていく。

●プロトタイプ初期型

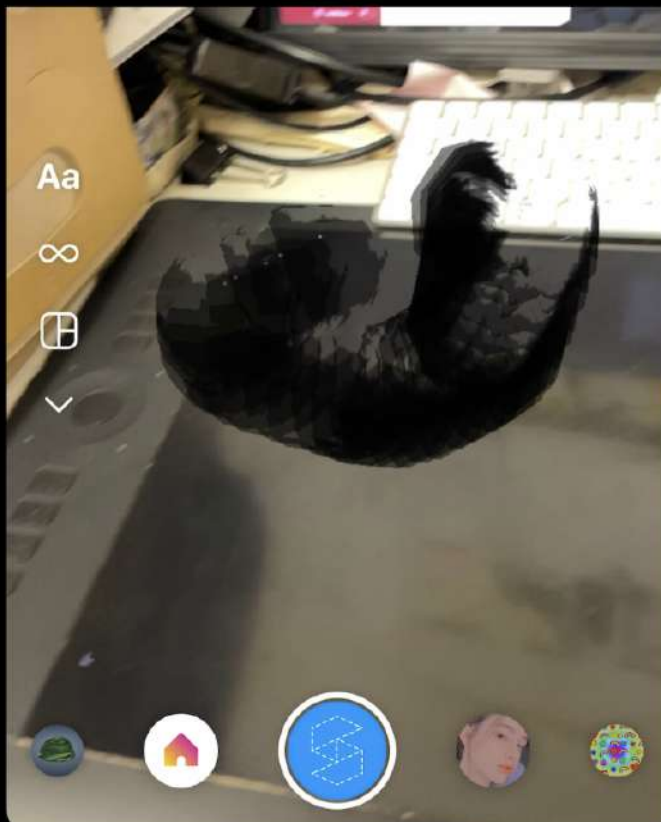


一松模様の部分は3D生成された筆先の追従オブジェクト。

このオブジェクトに筆致をマッピングしていく。

墨絵のニュアンスを出すために30秒後に順次消えていく。

●プロトタイプ現時点



3Dオブジェクトに筆致をマッピングして筆書きニュアンスの筆先を生成する。

タップすると描画モードになり、さらにタップすると描画が止まる。

墨描きなので消しゴム（キャンセル）機能をつけていないが要検討。

今後の検討点と修正および展開について

今後の研究展開によって下記を実現させる。

- ▶ ・手へのトラッキング、顔のトラッキング自体はできているが果たしてこれが最適解かどうかを今後しっかり検討する。
- ▶ ・描画されている3Dオブジェクトを「流動体」として発現を技術的に解決する。
- ▶ ・雪舟の運筆実現のために視覚的に「墨」の流動性をリアルに実現させる。
- ▶ ・総社市内の雪舟ゆかりの地（雪舟生誕地公園/宝福寺/総社吉備路文化館など）でそのエリア限定のARを制作する。

今後の検討点と修正および展開について

- ▶ 総社市政策調整課さん、観光プロジェクト課さんと連携して総社市内でのイベントなどに今回のARコンテンツを展開できるようにしたいと考えています。
- ▶ またそれまでに完成度を高めていきたいと考えています。

ご静聴ありがとうございます。